

# 第4章 目指す将来像

## 1 あるべき姿・理念

地球環境の保全のため、温室効果ガスの排出を抑制することは、地球に暮らす私たちにとって、避けられない課題となっています。県民や事業者など、様々な主体があらゆる活動において温室効果ガスの排出を極力抑制し、太陽光や風力発電等の再生可能エネルギーを可能な限り活用し、また吸収源対策として森林資源を活用したカーボン・オフセットなどを通じて温室効果ガスの排出を相殺し、その結果、温室効果ガスの排出が抑制された低炭素で豊かな社会の実現を目指します。

### あるべき姿・理念

#### 低炭素社会の実現

#### 三重県の将来ビジョン

くらし

新しい豊かなくらし

まちづくり

みんなで取り組むエコなまちづくり

ものづくり

低炭素なものづくり

2020年

#### 三重県の取組の基本的視点

意識から行動へ

様々な主体の連携

資源の有効活用

事業者の自主的  
取組促進に  
関すること

生活に  
関すること

建物・住宅に  
関すること

協創による  
低炭素社会の構築

交通・移動に  
関すること

森林の保全に  
関すること

エネルギーに  
関すること

国の取組『京都議定書目標達成計画』

## 2 三重県の将来ビジョン

三重県は南北に長く、西側には鈴鹿山脈や台高山脈が連なり、東側は伊勢湾や熊野灘に面しています。その沿岸部に中小規模の都市が点在し、都市を結ぶように鉄道網や道路交通網が発達しています。県北部には化学工業や液晶・半導体産業、自動車産業が集積し、県経済の発展に寄与しています。また、県南部には森林をはじめとした豊かな自然があります。

低炭素な暮らしやまち、ものづくりが実現した将来の姿として、次のとおり平成32(2020)年以降の三重県の将来ビジョンを描きました。

### くらし 『新しい豊かなくらし』

#### ～将来の姿～

日常生活に関する様々な活動が環境負荷の小さなものとなっています。物質的な豊かさ・便利さの一方で、豊かな自然を感じ、時間にゆとりを持って、環境と調和して暮らしています。

- ✓ 誰もが環境を意識して買い物をしている
- ✓ 日々の省エネルギーに積極的に取り組んでいる
- ✓ 省エネルギー家電が普及している
- ✓ エコ住宅に住んでいる
- ✓ 地域で獲れた農産物・林産物を選んでいる
- ✓ 地球の大切さを子どもたちに伝えている
- ✓ 豊かな自然を意識して暮らしている
- ✓ 森づくりに市民が積極的に参加している

### まちづくり 『みんなで取り組むエコなまちづくり』

#### ～将来の姿～

建築物や交通機関など、まちや地域そのものが環境負荷の小さいものとなっています。また、都市域と中山間地域の交流による取組が進み、全体として温室効果ガスの排出が抑制されています。

- ✓ 徒歩と自転車による移動が容易で、公共交通機関の利用が積極的になされている
- ✓ 電気自動車などの次世代自動車が普及している
- ✓ 太陽光発電等の再生可能エネルギーの利用が進んでいる
- ✓ ビル等の建築物が省エネルギー化している
- ✓ 都市と中山間地域等の交流により、環境負荷の低減に向けた取組が広がっている

## ものづくり 『低炭素なものづくり』

### ～将来の姿～

工業製品や農産物などの生産活動が低炭素化されています。使用から廃棄までの全ての過程が低炭素化された製品やサービスが提供され、低炭素に配慮した経済活動が行われています。

- ✓ 環境負荷の小さい生産活動が確立している
- ✓ 製品の使用から廃棄までの環境負荷が小さくなっている
- ✓ 中小企業のほとんどで省エネルギーの取組が進んでいる
- ✓ 全ての事業者が環境に関する社会貢献を実践している
- ✓ 環境関連の市場が成立し、環境ビジネスが展開されている
- ✓ 地球温暖化対策に関連する技術が進んでいる
- ✓ 地産地消を担う生産物が提供されている

